

全国山城サミット 開催記念連載「益田の山城探訪」(全8回)

第5回 四ツ山城跡(よつやまじょうあと)

【問い合わせ先】

市文化振興課 ☎ 31-0623

今年11月16日(土)・17日(日)に益田市において「第31回全国山城サミット益田大会」が開催されます。これにあわせ、本連載では市内の代表的な山城を紹介します。

東仙道地区には、横に並んだ同形同高の4つの山があり、地域のシンボルとなっています。この山々も山城でした。

4つの山頂は全て曲輪(平地面)になっており、これらが連絡路でつながっています。

最も東の一の岳は北側の尾根に向けて3段の曲輪が伸びており、山城の中心であったと思われます。仙道の中心部を見渡すことができ、尾根筋には堅堀が配置され、北からの侵入に備えています。東から2番目の二の岳との連絡路の北側には井戸もあります。

二の岳には帯曲輪(主要な曲輪の周りを取り囲む帯状の細長い曲輪)が配置されています。

東から3番目と4番目の三の岳・四の岳の曲輪はやや小規模で、西側からの侵入を防ぐ役割を担っていたと思われます。

四ツ山城の城主やその歴史についてはわかっていませんが、仙道は鎌倉時代後半の益田氏の本拠であったと考えられています。四ツ山城跡から仙道の平野部を挟んだ

反対側の台地上には、益田氏の氏神が勧請された神寶山八幡宮が鎮座し、その麓には古代国家の官衙やその関連施設の遺跡が複数所在します。また、三谷川が平野部に至る出口付近の東仙道土居遺跡からは、中世の供養塔の破片と貴重な貿易陶磁器が多数出土しました。地域のシンボルである四ツ山城跡では、歴史ウォーキングが毎年開催されているほか、イルミネーションによる「一夜城」なども行われています。



四ツ山城跡遠景

よく似た形の4つの山が並んでいます。
(左から一の岳、二の岳、三の岳、四の岳)

「第31回全国山城サミット益田大会」の開催を記念して、市内の山城をめぐる益田市内山城ラリーを実施します。

●第3回「四ツ山歴史ウォーキング」

日 8月25日(日)

※詳しくは9ページをご覧ください。